

令和2年度 学校評価・関係者評価 報告書

加西市立加西中学校

学校教育目標

「自ら学び続ける、心豊かな生徒の育成」

本年度の重点

1. 組織運営
2. 「基礎学力」「基礎体力」定着・「基礎モラル力」「非認知能力」育成
3. 安全・安心な学校づくり
4. 教職員の資質向上
5. 家庭・地域社会と連携した教育の推進

総合的な自己評価

急激に進む社会構造の変化により、教職員も変化と対応が求められ、新しい学習指導要領に向けても、更なる能力開発と指導力向上が必要となっている。本年度は、「基礎学力」「基礎体力」「基礎モラル力」「非認知能力」「教職員の資質向上」を重点事項として取り組んだ。日々の教育活動や校内研修を通して、職員が高いレベルで見直しの必要性を感じ、個人的にも、組織的にも改善に取り組み始めている。教職員の意識向上にもなって、全体的に厳しい自己評価ができるようになった。厳しい自己評価も、成果の一つであり、意識改革の表れの一つだと評価している。

学校評価の方法についての学校関係者評価

学校目標達成度や教育活動の様子は、数値等の明確な結果がないため、評価の基準づくりが重要になる。教職員の意思統一を職員朝集で繰り返し行い、校内研修も定期的実施することで、教職員の基準づくりを進めた。意思統一された教職員が行った「自己評価」を全体に返し、それをもとに「学校評価」につなげる取り組みにより「評価」の信頼性を高めている。今後も引き続き、評価の基準を明確にしていく必要がある。

総合的な学校関係者評価

評価項目が、具体的で、実践的なことにより、教職員が明確で実効性のある振り返りができている。職員朝集や校内研修で、教職員の意識向上、教師力向上に取り組まれた結果、意識の高い教職員が増え、「自己評価」「学校評価」とともに、自分たちに対して厳しい評価ができるようになった。今後は、現在の取り組みを進め、組織を動かすミドルリーダーと若手教員の育成を期待している。

学校自己評価結果 A…よくできた B…できた C…あまりできなかった D…できなかった

評価項目ごとの学校関係者評価

分野	評価項目・取組内容	評価	学校の取組状況・課題・改善の方策	自己評価結果および改善方策の評価
学 習 指 導	基礎的・基本的な知識・技能の習得に努めている。	B+	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、必ず基礎・基本的事項を習得させるための活動（ドリルやワークシート等）を行っている。 ・もっと多様で豊かな表現活動を取り入れられたらよかったと反省が残っている。 ・学習規律を確立させるため、チャイムが鳴る前に教室へ行き、係に忘れ物・宿題点検をさせている。 ・宿題をもっと細かく出して、学力の定着に取り組むべきだった。 ・教科によって態度が変わる生徒が多くいる現状がある。 ・今年度は、例年以上に講義形式の授業が多くなった。 ・毎時間めあてを掲示し、板書と電子黒板の使い分けを意識している。 ・授業の最初に示す「めあて」が抽象的だったり、めあてまで到達できず終わってしまう授業が度々あった。 ・板書も見やすくするための工夫がまだまだ必要。ねらいを明確にし、板書計画にも力を入れる。 ・相互授業参観やその感想のまとめ、「授業改善」の校内研修などを通して、各教師が意識して授業改善に取り組むようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が落ち着いて学習に取り組んでいるのは、先生方の授業に対する準備と取り組みの結果だと感じている。 ・落ち着いて学習に取り組めており、学習に対する意欲は向上している。 ・コロナ禍の臨時休業中にも、課題の配布・回収、課題の作成・点検と、学力保障に向けて学校全体で取り組んでいたことに感謝しています。 ・つまづきを解消し、理解を進めるために、ワークシートなどを多く使い、授業の工夫を重ねられている。 ・ワークシートを利用し、授業を組み立てる。授業展開や板書計画など明確にすることができている。 ・宿題忘れ、課題忘れに関して、該当生徒が固定化している。その手立てについて、組織的に考えていただきたい。
	思考力・判断力・表現力の育成に努めている。			
	学習規律（時間・忘れ物・宿題・自主的発表）を確立し、学習に向かう姿勢や気持ちをつくれている。			
	学習効果を上げるため、個別やグループ別指導等、効果的な指導形態の工夫・改善を行っている。			
	毎時の授業のねらいを明確にするとともに、板書、発問、ワークシート等に工夫・改善を行っている。			

学 習 指 導	生徒の個性や到達状況などを把握し、個に応じた指導により「わかる」「できる」を生徒が実感できる授業づくりに努めている。	B+	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた問いかけをできるだけ全員にして、「言えた」「答えられた」という気持ちを持たせるようにしている。 ・個へのアプローチが足りていなかった。苦手を感じている生徒に「わかる」「できる」を実感させることはできていない。 ・苦手な生徒に対して、難しい内容が多かったように思う。個々のレベルに合わせた学習ができるように工夫する。 ・相互授業参観の際にも、しっかりと考えられた授業をされている先生が多い。 ・一人教科のため、受け身ではなく、授業を見に来て欲しいというアピールをして、多くの先生方から意見を頂きたい。 ・計画、内容、評価について話し合うことは多いが、授業に対する意見を伝えあうことが少ない。 ・お互いの授業を参観し合ったり、教科指導について話し合う機会を普段から大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な生徒、悩んでいる生徒の理解度に応じてスモールステップが踏めるような指導を個別に行っている。 ・学校全体として教え込みの学習形態から意識して授業を見直し、授業改善が進められていることが伝わってきた。 ・若手教員が増えている状況では、これまで以上に計画的に教科会を開き、教科として授業改善を進める必要性を感じる。 ・一人一台のchromebookが導入され、先生方も準備や指導が大変になることが想像できる。そのような中、将来、生徒達が活躍する時代に必要なスキルを身につけながら、わかる授業に向けて、ICT危機を有効活用した授業改善をすすめていただきたい。
	各教科の特性を踏まえ、関わり合い学び合う学習、体験的・問題解決的学習を設定し、生徒が主体的に取り組む授業を展開している。			
	教科会などを適宜開き、情報交換を行い、自らの授業を振り返り、工夫・改善を加えている。			
道 徳 ・ 人 権 教 育	自他の生命を尊重し、人間的ふれあいを深め、思いやりのもてる豊かな心の育成に努めている。	B+	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週、学年で資料分析をして発問を検討することにより、授業力は向上してきているのではないと思う。 ・十分な対話を生み出せていない。対話をさらに深める必要がある。生徒の実態を把握し、発問の工夫をしたい。毎週の学年会における道徳指導案の検討は、非常に力になっていると感じる。 ・教職員全体で、育成を目指して研鑽をすすめられていると思う。 ・担任は分析シートや指導案を事前につくり、学年会で時間をかけて教材や授業に向けた検討がなされている。 ・非認知能力の育成に学校全体で努めることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策にあわせて、感染症に対する人権教育も進めていただきたい。人権問題が起こった対処的な対応でなく、問題が起こっていないときに行う人権教育が必要だと考えていただきたい。 ・各学年で道徳について学年会が行われており、教師の理解を深めようとして取り組んでいることが素晴らしい。 ・学校全体として教材の読み込みをもっと行い、発言に対しての受容や問い返しも、継続して研修が必要だと感じる。 ・行動面の指導ではなく、内面にある意識に目を向けさせ、行動を振り返り改められる指導に取り組んでおられることを今後も継続していただきたい。 ・生徒は授業の中では正しいことを発言できるが、実際の行動や雰囲気と合っていないことがあるように感じる。 ・道徳授業と日常生活が、生徒の中でつながっていくような日々の指導こそが大切である。
	年間指導計画に基づき教材・資料を充実させるとともに、対話による授業力を向上させ、道徳的心情と道徳的判断力の育成に努めている。			
	自他の違いを理解し、違いを認め支え合い、共によりよい生き方に向かう姿勢を醸成している。			
	年間指導計画に基づいた指導を行い、身近な問題に気づき、考えることで、人権感覚を養っている。			

<p>特別 教育 支援</p>	<p>支援が必要な生徒の実態把握と教育的ニーズの理解をし、個に応じた適切な指導・必要な支援等を行っている。</p>	<p>B+</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発達支援ファイルの記入にともない、各生徒への支援の手立てを考え、意識して行うようになってきている。 できることとできないことの把握をして交流授業での適切な支援が必要だと感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の思いなどを理解し、具体例のある研修等を行うことで、学校生活の中でよりよい支援できる体制を継続して進めていくことができると考える。
<p>特別 活動 ・ 総合 学習 ・ その他</p>	<p>好ましい人間関係とモラルのある集団生活が営まれる学級・学年づくりがすすめられている。</p> <p>生徒の主体的・協働的活動を支援し、生徒主体の学校づくりを通して、創造的な力の育成に努めている。</p> <p>事前・事後指導を充実させ、意図的で計画的な特別活動や総合学習により、基礎モラル力と非認知能力の効果的な育成が進められている。</p> <p>部活動の意義を理解し、達成感や満足感の体験を通して非認知能力の育成に努めている。</p>	<p>B+</p>	<ul style="list-style-type: none"> 集団生活を営んでいる自覚を高めきれていないクラス・学年の現状がある。 周囲に合わせようとするので問題が表面化していないが、人間関係としては希薄な印象を受ける。 学級では、自主的に行動する者は多いが、よりよくするために創造するような姿勢はまだまだ養えていない。生徒がこんなことをやってみたい！と感じさせるような仕掛けをしていく必要がある。 毎学期、非認知能力育成シートや3ヵ月計画を作成することにより、意図的で計画的な活動や学習が進められている。 意図的・計画的に行うために、昨年度資料も参考に長期的な見通しを持つ力が必要。 3ヵ月計画活用により、見通しをもって活動できている。ただ、まだ修正が必要な場面があるので、学年で話しながら改善していきたい。 放課後の部活動に生徒と共に活動できる雰囲気がある。 教室から部活動に向かう様子を見ると生徒の心に火がつけられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にとって、一番身近で、一番長く過ごす大人が教師である。一番の環境である“教師”の存在は大きい。生徒と教師が一緒になって成長する学校であってほしい。 体験活動を中心とする学校教育全般を通して、AIを使いこなせる、“人間の強み”をもった生徒の育成に取り組んでいきたい。 SHRで、学級・学年・登下校・休み時間の過ごし方等、身近な問題をみんなで考える時間が、今後さらに重要になってくる。 生徒が主体的に動いて自らが新しいものを創り出そうとするためには、教師側のひと手間が必要になってくる。 事前・事後指導の学習内容を精選し、3年間を見通し計画的におこなう意識が芽生えている。 3ヵ月計画を作成することで、見通しをもって意識して取り組む教育活動が、より推進されるようになっている。 事前指導等が不十分な活動では、指導者側に計画性がなく、形式的な行事となり効果的な教育活動は難しい。 部活動では、達成感や満足感などの体験機会が大切であり、部活動を通して何を教育するかを見直す必要がある。

生徒指導	<p>基本的生活習慣の確立、規範意識の育成、基礎モラル力の向上に努めている。</p>	B+	<ul style="list-style-type: none"> SHRや学年朝集で、自分たちの課題や問題を生徒自らに考えさせることで、規範意識や基礎モラル力の向上を図っている。 見逃さない指導を心がけているが、中々基本的なことができていないことが多い。何が正しいのか考えさせた。 気になる生徒に寄り添う気持ちを大事にし、行動・言動にある背景を考えながら声かけをしている。 生徒指導小委員会が充実し情報交換ができた。問題行動に対しても組織的に対応できた。 情報把握・情報共有が遅れ、組織的対応が不十分だったケースがあった。 毎週行っている学年会や生徒指導小委員会を通して、問題行動等への組織的な対応が徹底できてきた。 職員室内が相談や話がしやすい雰囲気になっている。 SSW、SCとの情報交換を、意識して行えた。ただ、具体的な支援にまでつなげていないケースがある。 学年会等でしっかり情報を共有し、担任を中心に家庭やSC、SSWと連携した支援が行えている。 担任が家庭訪問したり関係機関との関わりを積極的にもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 昼に運動場で遊んでいる生徒の姿を見ると、明るくて健全な雰囲気がよく伝わってくる。 子どもは、困ったことや悩みがあれば、先生に相談しているようである。家では、子どもから、先生の助言や話された内容がよく出てくる。生徒一人一人の指導を、生徒に寄り添いながらされているのが伝わってくる。 成功体験の少ない生徒に対して、失敗を咎めるのではなく、対話により、どうすれば良かったかを考えさせるよう心掛けている。 問題行動があった時は、すぐに学年会で共通理解を図り、管理職や生指担当にも報告、相談するなど、迅速な対応を講じている。 学年での情報交換がうまくいっていないので、形式的な話し合いだけでなく、職員室でのコミュニケーションを増やしたい。 共通理解を図っているが、本当に職員全員が共通に理解できているのか難しい場面もある。 SC、SSWを中心に外部機関との連携が進んできていると思う。 表面的には大きな問題としては表れていないが、問題につながる要素はたくさん存在している。それらを考えさせることで、学びの機会としていくことが大切である。
	<p>生徒の実態をふまえ、厳しさと温かさのある生徒指導を実践し、自ら考え、判断し、行動する態度の育成に努めている。</p>			
	<p>円滑な報告・連絡・相談により職員の共通理解を図り、問題行動等への誠実で迅速な組織的対応が行われている。</p>			
	<p>生徒理解に努め、生徒や保護者が安心して相談できるようにしている。</p>			
キャリア教育 ・進路指導	<p>学年に応じた進路指導計画に基づき、社会人としての自立に向け、自己を見つめ、夢や目標をもって将来の生き方を考えるキャリア教育を推進している。</p>	B+	<ul style="list-style-type: none"> 高校進学という目先のことでなく、将来につながる進路を考える時間を一年生から取り組む必要があると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と保護者の思いをもとに、多くの情報から必要な情報や選択肢を提示し、わかりやすい説明をお願いしたい。 進路の厳しさを指導するだけでなく、将来に向けて、夢を持たせる指導を心掛けていきたい。 受験指導にならず、高校生活が充実し、将来へ繋がるような、生き方の指導を大切にしたい。
	<p>保護者と連携し、自らの意思と責任で生き方や進路選択ができるよう、教育相談の充実を努めている。</p>			

<p>安全・防災教育</p>	<p>生徒の健康や安全に留意し、活動環境や活動状況を把握する等、安全対策に努めている。また、事故等の緊急時の体制を整備し、役割分担を明確にしている。</p>	<p>B+</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の体調の管理は授業の中で行っている。事故が起こらないことを十分考慮した授業準備を行っていく。 毎月の安全点検や学期ごとの防災学習（非難訓練）を通して、防災の意識は向上してきているように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心して子どもが生活でき、安心して子どもを送り出すことができるような、安全・安心の確保された学校づくりが進められている。 防災訓練など意識を高めるための工夫がされている。今後は、不審者等の防犯訓練なども取り入れてはどうか。 状況に応じて臨機応変に対応できる教員の資質向上が求められる。
<p>地域・家庭・社会と連携</p>	<p>学年・学級通信・配布物やHP・オープンスクール等により、学校の情報や教育活動の様子を家庭・地域に伝え、保護者及び地域の学校への関心を高め、理解と協力を得るよう努めている。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自らできるだけ保護者と対話する機会を持つように意識し、協力を得やすい関係づくりに努めている。 学級通信で生徒の様子を家庭にも返していくことができるよう意識して取り組んでいる。 学級通信がタイムリーに迅速に出すことができている。また、明確な意図をもって出すことができている。 学校メールや校長先生が更新されるHP等でも学校の様子を伝える取り組みがなされており、学校と地域の近さを感じる。 HPの更新や、オープンスクールの定期的な開催が、地域とのつながりを深めていると感じた。 保護者や地域に情報を発信することが、いい意味で「当たり前」になっている雰囲気を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの教育を、学校任せでなく、保護者も責任をもって行わないといけないと感じている。教育と躾、学校と家庭の両方が大切で、家庭という土台が大切だと感じる。 学級通信・学年通信で、生徒や学校の様子が保護者に伝えられている。 HPでは学校行事等のイベントだけではなく、普段の授業の取り組みなども紹介され、学校が、どのような思いや意図で教育活動をしているかが、伝わってくる充実した内容となっている。
<p>教職員の資質向上</p>	<p>学校運営参画意識と貢献意欲をもち、分掌された校務を的確かつ効率的に行っている。</p>	<p>B+</p>	<ul style="list-style-type: none"> 分掌された校務に責任を持ち、見通しを持って、効率的に行うことを心がけている。 全体をまとめるためのコミュニケーションが不十分なところがあり、改善の余地がある。 年間計画や3か月計画が甘く、計画的に校務分掌を行うことができないことがあった。 校内研修では、教師力向上に向けて勉強になることばかりである。校外の研修にも参加していき一層の資質向上に努めていきたい。 ほぼ毎週月曜日の校内研修や毎朝の教頭先生のOJTを通して、教師力向上がはかれている。 校内研修を通して、目指す教師像が全体で一致し、よい取り組みになっていると思う。 各先生方が様々な研修に参加され、その成果を共有してもらえると環境が充実していると思う。 自信の無さが生徒にも伝わってしまっていると思う。自信をつけるためにも十分な準備をして行きたい。 より良いものを目指すという雰囲気が十分でない。 以前より早く帰りやすい雰囲気が職員室内にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 若手教員が増えたが、自己評価、相互評価ができる仕組みを工夫されていることが、教師力向上に繋がっていると思われる。 ベテランのもっている知識・技能を吸収・継承して、若手教員は教師力の土台として欲しい。 「思っていることが口にできる」職場づくりは本当に難しく実現は困難であるが、加西中の様々な評価は、問題や課題をハッキリと出し合っている。このような評価をしいえる加西中の職員の関係は素晴らしいと感じた。 先生方の意見にある「職員室が話しやすい」から、良い職場関係を築かれ、良い組織をつくられているのがわかります。それらのことは、必ず生徒に良い影響を及ぼし、生徒の健全育成につながるものと確信する。
<p>自ら校内外の研修に積極的に取り組み、教職員としての資質、実践的指導力の向上に努めている。</p>	<p>高い理想、目標をもって挑戦し続け、教職員プロとしての誇りのある指導を実践している。</p>			

教職員の資質向上	働き方改革の意識をもち、計画的で効率の良い業務改善を図り、他の職員を気にかける協働的な職場づくりを推進している。	B+	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画的な業務を、学年全体に浸透させることに不十分だったと思う。特に若手の先生へのサポートが課題。 ・ 机まわりの整理、仕事の優先順位の付け方等、仕事力の向上を図っていかなければならない。 ・ 職朝での話やOJT、また、毎学期にあるコンプライアンスの意識調査等を通して、意識の向上が図られてきたように思う。 ・ 取り組みや実践を振り返り、スクラップできる（すべき）ものは思い切ってなくすことも検討すべきだと思う。 ・ 時代やその時のニーズに合ったもの（分掌や取り組み等）を整理することも大切なのではないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師としての資質や指導力を向上させるために、積極的に校内外の研修を推奨されていることは評価できる。 ・ 職員朝集や定期的で開催されている校内研修会を通して、教員の資質は確実に向上していると考えられる。 ・ 多忙の中、熱心に教育に取り組んでいたが、社会の情勢も汲みいただき、業務改善への意識を強く持ち取り組んでいただきたい。 ・ 個々で業務する時代でなく、組織で業務を行う時代がきている。意識して協働的に組織的に業務に取り組んでいただきたい。 ・ 校内研修等でマニュアルも活用しながら、形式的な対応にならないよう危機管理意識を高めることが必要である。
	コンプライアンス意識の向上を図り、様々な危機管理意識をもった職務の遂行に努めている。			